

滋賀県立守山高等学校 SGH講演

1. 日時 : 平成 28 年 9 月 21 日 (木)
2. 講演者 : 川島 利子 氏
3. 講演テーマ : 海外における看護体験と学習支援について
4. 対象生徒 : SGH 課題研究チームおよび希望生徒
5. 講演概要 :

「自分にできることを、一步一步、こなしてきた。」

9月21日(木)の放課後、アフリカで一番小さな国(岐阜県とほぼ同じ大きさ)のガンビアで、1986年から30年もの間、様々な援助活動に従事されている、川島利子(かわしま としこ)さんにご来校いただき、お話を伺いました。



初めて川島さんにお目にかかってビックリです!「そのお体から、どうして厳しい環境のアフリカで働き続ける力が出てくるのかな。」と不思議に思える程の小柄な体格で、且つ、大変控えめな口調で私たちに挨拶いただいたのです。謙虚さが身体中から滲み出ている、とでも言うべきでしょうか。そういえば、日本に滞在中は、徳島県の教会(キリスト教)に身を寄せておられるとのことでした。

ただ一旦お話を始められると、静かな口調の中にも、ガンビアへの思い、特にそこで暮らす子どもたちへの熱い思いが、ひしひしと伝わってきました。貧困のために学校に行けず、文字など社会で必要な知識を学ぶことなく、働かざるを得ない子どもたちは、多くの場合、その子どもたちにも自分の子ども時代と同じ生活をさせていくこととなります。どこかでこの悪循環に歯止めをかけなくては行けないのです。

ただ一旦お話を始められると、静かな口調の中にも、ガンビアへの思い、特にそこで暮らす子どもたちへの熱い思いが、ひしひしと伝わってきました。貧困のために学校に行けず、文字など社会で必要な知識を学ぶことなく、働かざるを得ない子どもたちは、多くの場合、その子どもたちにも自分の子ども時代と同じ生活をさせていくこととなります。どこかでこの悪循環に歯止めをかけなくては行けないのです。

「熱い思い」は表現こそ違え、6日前にお話しをお聞きした宮口先生と同じでした。曰く、「自分の力は小さいが、(自分が)できることを、少しずつコツコツとやり続けることです。」

お話いただいた1時間半がアッという間に過ぎていきました。ガンビアという国、そしてそこに住む人たちの人情に魅せられ、30年間を現地で過ごされた川島さんですが、やはりそれだけでない、何か不思議な「力」が川島さんを後押しした、と感じられてなりませんでした。